

文楽 Bunraku News 応援団通信

文楽
応援団通信

第29号

2016. 7. 23



かなつぽおやしこいのたてひき
『金壺親父恋達引』

文楽応援団ホームページ

<http://bunrakuouendan.web.fc2.com>

文楽応援団ツイッター

<http://twitter.com/#!/bunrakuouendan>

QRコードはこちら



HP



Twitter

文楽応援団

検索

文楽応援団の自己紹介

Issued by Bunraku Ouendan

文楽応援団は文楽の普及・振興を目的とするボランティアのグループです

おもな活動内容は

- ①文楽公演のポスター・ちらしを配布
- ②資料展示室における文楽関係展示品の解説
- ③観劇のグループに公演のあらすじや見どころ聞きどころを解説
- ④劇場外での普及活動(文楽の楽しみ方などを解説)等々です

この他、文楽に関する学習会や懇親会なども行います



しんべんさいゆうき ごーうえすと
『新編西遊記 GO WEST!』

〒542-0073 大阪府中央区日本橋1-12-10

国立文楽劇場 事業推進課 文楽応援団担当

TEL 06 (6212) 5542 (直通) FAX 06 (6212) 1202

『夏休み文楽特別公演の ちよつとした見所!』

六世 鶴 澤 燕 三

夏休み文楽公演第三部はサマーレイトショー、十九時開演、『金壺親父恋達引』です。

モリエールの性格喜劇「守銭奴」を井上ひさしさんが翻案脚色した作品です。

野澤松之輔師匠作曲で、NHK放送で上演はしていましたが、本公演としては初お目見えです。

お金大好き金仲屋金左衛門は、持参金目当てに若い娘お舟と再婚しようとしませんが、あろう事かその娘は息子の万七と相思相愛、また娘お舟を今売り出し中の呉服屋京屋徳右衛門に後添えに出そうと思ったら、お高は店の番頭行平と、これも相思相愛、それぞれが駆け落ちの騒ぎとなります。

そこに、お金大好き金仲屋金左衛門が庭に埋めた大金の入った壺（金壺!）を掘り出し、万七の駆け落ち資金として用立てようとする手代豆助の働き?やら、京屋徳右衛門と行平、お舟の関係発覚!やら大騒動!間に文楽古典名作でお馴染みの節（何かな?お楽しみ!）が出て来たり、あつと驚くどんでん返しがあったりの末フィナーレへ、と言うお話です。

性格喜劇とは、登場人物の性格が故に引き起こされる悲喜こもごものドラマの手法だそうで、ご存知の方は今更ですが、モリエールの得意とした作劇法、たそうです。

残念ながら私は出演致しませんが、必ず楽しんでいただけたらと思いますので、是非お出ましく下さい!

他に、第一部（十一時）は親子劇場として、牛若丸・弁慶の『五条橋』、解説『ぶんらくってなあに』と『新編西遊記 G O W E S T !』を上演。

第二部（十四時）は名作劇場として、『薫樹累物語』、これは誤解と行き違いと強欲者の織り成す救済の無い悲劇、またお馴染みの夏狂言、『伊勢音頭恋寝刃』を上演します。

私は伊勢音頭で咲さん兄さんと、最後に十人バツバツと斬り〇します。

どうぞ宜しくお願い致します!



撮影：小川知子

やっぱり文楽はやめられない! 其の二十四

『丸本を原文で読む 勉強会奮闘記』

横田 憲一郎

文楽の丸本（浄瑠璃本）を刊行されたままの文字と文章で読んでみよう。文楽応援団のこんな勉強会が五月の連休明けからは毎週一回行われました。教材は近松門左衛門の「大経師昔暦」中之巻で、講師は国立劇場・国立文楽劇場で文楽の制作に携われた京都市立芸術大名誉教授の後藤静夫先生。応援団メンバー二十三名が参加しました。

「大経師昔暦」はおさん、茂兵衛が偶然不義を働いてしまい、駆け落ちのすえ捕まる話。京都で実際に起きた事件を題材にした世話物です。後藤先生は、近松の作風がよく表れ、当時の世相などが丁寧に描かれているわりに上演機会が少ないなどの理由でこれを教材に選んだそうです。

「丸本や床本が少しでも読めれば素晴らしいし、解説に役立てることが出来る」。淡い願望で参加した私たちはまち頭を抱えてしまいます。旧字、変体仮名がほとんど読めない有様。学んだ方にはわかりきったことでしょうが、例えば、「か」には加、可、賀など元の漢字のくずし方

によって幾通りもの仮名文字がある。「は」の元字が者、「す」が春など見当のつかないものもあります。くずし字辞典片手に挑戦するものの、まるでパズルを解く作業。最初は一時間で三、四行しか解読できない状態でした。

焦る日々。だが「徐々に慣れますよ」という後藤先生の言葉を信じて出席するうちに、少しは判読できるようになってきます。視界が開ければ別のものも見えてくる。「丸本には文字譜という音楽情報が書かれている」とおっしゃったとおり、声の調子を変えたり、区切る場所、太夫が交代する場所などが小文字で明記されているのです。

二時間の勉強会は原文を音読し、ストーリーや時代を理解するのが中心ですが、後藤先生が披露するうちくがまた楽しい。ある日のうんちく。江戸時代、一座に太夫は五人位しかおらず、切場は全部ひとりです。やがて人数が増え数人で語るようになった等々。

さて勉強会のおかげで文楽への理解はどの位深まったやら。「大経師昔暦」の大阪上演は平成十五年以来ないのですが、次の上演時にはましな解説ができるかな。いや、さっそく夏休み特別公演にも成果を発揮しなければ。あゝ「やっぱり文楽はやめられない!」（されど、むずかし）

最近の活動風景

「滋賀県奥びわこ邦楽器系の里」 見学バスツアー (2016.7.1)



「佃平七工房」へ向かう



「富田人形」
留学生による「三番叟」



「丸三ハシモト」で邦楽器系の
製造工程の話进行



「富田人形」の
皆さんと記念撮影

「劇場周辺まち歩き」 (2016.5.14)



「五世竹本春太夫墓」
の前で



「豊竹桜」を見上げる
の前で



「久成寺」にて



「近松門左衛門墓」前で
集合写真

出前解説 「泉南シニアいきいき講座」 (2016.5.21)



泉南市信達公民館



泉南市樽井公民館



「大阪あそ歩」への解説 (2016.5.14)



勉強会「浄瑠璃本を読む」 (2016.5.6 ~ 2016.7.15)



文楽応援団 東西と一さい



- * 1月21日吉田玉男さんが平成27年「関西元氣文化圏賞」を受賞されました。
- * 1月28日豊竹嶋太夫師が愛媛県庁において、「愛顔のえひめ文化・スポーツ賞文化特別功労賞」を受賞されました。
- * 1月29日桐竹勤十郎さんが第57回毎日芸術賞を受賞されました。
- * 2月24日吉田玉男さんが平成27年度「大阪文化祭賞」を受賞されました
- * 4月2日より芸名表記の『大夫』を、流祖竹本義太夫師以来の元々の表記である『太夫』に変更になりました。
- * 5月7日阪神・ヤクルト戦の始球式に『其礼成心中』『みたに君』人形(吉田一輔さん、吉田簀之さん、吉田簀悠さん)参加。
- * 豊竹英太夫さんが平成29年4月大阪国立文楽劇場、5月東京国立劇場小劇場での文楽公演で六代豊竹呂太夫を襲名されるとの発表がありました。
- * 応援団 HP 来場者数 80,414 人、文楽応援団 ツイッターのフォロワーが 1,673 人になりました。(2016.7.9 現在)
- * 次回公演
東京：9月3日(土)～9月19日(月・祝)
大阪：10月29日(土)～11月20日(日)
※11月9日(水)は休演

「滋賀県奥びわこ 邦楽器系の里」 見学バスツアーに参加して

谷野 優子

梅雨の晴れ間の七月一日、文楽応援団のバスツアー参加者二十五名は邦楽器の里、滋賀県長浜市木之本方面へ向かいました。三味線の絹糸はどこで、どのようにして作られているのか、最も上質な糸が取れる春蚕の糸とりは六・七月に限られるため、めつたに見られない企画に胸躍ります。

最初に訪れた「佃平七糸取り工房」は賤ヶ岳の山麓の大音地区にあります。むんむんした暑さの中、「座繰り機」に座った女性たちが八十度の湯につけた白い繭から糸はしを見つけ、指にとると手早く糸をたばねます。巧妙で繊細な手わざには驚くばかり。

昼食のあと、商家や造り酒屋が軒をつらねつばめが飛び交う「きのもと宿」を散策し、邦楽器用の弦を扱う「丸三ハシモト」へと向かいました。

伝統産業のおかれている現状と糸づくりの工程を伺ったあと、黄色に染められた糸を張った部屋で、「節取り」という作業を見せていただきました。ここでも地道で丁寧な手仕事を

積み上げて良い音色の糸を作る職人さんの心に触れることができました。最後にバスは長浜市富田町の富田人形会館に向かいました。江戸時代から伝わる富田人形浄瑠璃専用の舞台を備えた立派な人形会館でホームステイ中の留学生たちが三番叟を熱演してくれました。人形の首も多数見せていただき、海外との交流などにも積極的な富田人形の活動は良い刺激となりました。

今回のバスツアーはみんなのために団員のご家族が運転を申し出てください、また入念に準備をして下さったお世話係の団員のおかげで多くのことを学ぶことができました。木之本の歴史を知り、文楽を支える人々と触れ合い、ますます文楽を大切に思う気持ちが高まった一日となりました。



「丸三ハシモト」での集合写真

- 1/ 3 新春公演初日。鏡開き。展示室解説、演目解説など、26日まで。
応援団通信28号、3,000部発行。
- 1/30 スタッフ会議。出席:6人。
- 2/12 第1回研修会前日準備。世話人:安藤。
- 2/13 第1回研修会。新春公演総括。新団員紹介。出席39人。
今期スタッフ:荒木・今井・馬越・奥本・榊田・関口・高橋・前川・村上・目黒・横田・安藤。
今期HP委員:榊田・油田・荒木・齋藤・立川・安藤。
今期編集委員:荒木・長・折井・安藤。
- 2/26 第1回研修会報告書発送事務作業。世話人:松井、安藤。
- 2/27 スタッフ会議。出席:11人。
- 3/11 第2回研修会前日準備。世話人:安藤。
- 3/12 第2回研修会。出席:43人。解説日程調整など。
4月公演演目説明、見所解説。担当:藤田。
- 3/22 後藤静夫先生と勉強会打合せ。世話人:榊田、横田、安藤。
- 3/25 第2回研修会報告書発送事務作業。世話人:松井、安藤。
- 3/28 第1回応援団活動写真バ刹作成。担当:荒木、齋藤。
- 4/ 1 第2回応援団活動写真バ刹作成。担当:荒木、齋藤。
4月公演初日の前日準備。世話人:安藤。
- 4/ 2 4月公演初日。
応援団登録証伝達式。農端支配人より授与される。出席:46人。
展示室解説、演目説明など24日まで。
- 4/ 4 伊予旅行者より解説依頼。18人。担当:荒木、岡持、原。
- 4/ 6 応援団通信第29号編集会議。出席:4人。
- 4/30 スタッフ会議。出席:11人。
- 5/ 6 勉強会。第1回浄瑠璃本を読む。『大経師昔暦中の巻』全9回。
講師:後藤静夫先生。出席:19人
- 5/13 第3回研修会前日準備。世話人:安藤。
勉強会。第2回浄瑠璃本を読む。『大経師昔暦中の巻』出席:18人。
- 5/14 第3回研修会。出席:43人。4月公演総括。
学習会「いわゆる説教講語座事件について」講師:北村初美係長。
- 5/14 「町歩き」重井筒碑、高津神社、久成寺、本径寺、法性寺、
正覚寺、近松門左衛門墓。参加:7人。
「大阪あそび」より解説依頼。18人。担当:荒木、馬越、岡持、安藤。
- 5/20 勉強会。第3回浄瑠璃本を読む。『大経師昔暦中の巻』出席:18人
- 5/21 「泉南の7いいき講座」より出前解説依頼。信達公民館:19人。
榊井公民館:16人。担当:荒木、馬越、前川。
- 5/26 パスワ-下見。参加:荒木、齋藤、榊田、安藤。
- 5/27 勉強会。第4回浄瑠璃本を読む。『大経師昔暦中の巻』出席:19人
第3回研修会報告書発送事務作業。世話人:荒木、齋藤、榊田、柴多、安藤。
- 6/ 3 勉強会。第5回浄瑠璃本を読む。『大経師昔暦中の巻』出席:19人。
- 6/14 「神戸女学院国際交流センター」より英語解説依頼。13人。
担当:岡持、酒井。
- 6/17 勉強会。第6回浄瑠璃本を読む。『大経師昔暦中の巻』出席:14人。
- 6/24 勉強会。第7回浄瑠璃本を読む。『大経師昔暦中の巻』出席:16人。
- 6/27 スタッフ会議。出席:11人。
- 7/ 1 「滋賀県奥びわこ 邦楽器系の里見学」研修パスワ-。
佃平七工房、丸三ハシ、富田人形会館見学。参加:25人。
- 7/ 8 第4回研修会前日準備。世話人:安藤。
勉強会。第8回浄瑠璃本を読む。『大経師昔暦中の巻』出席:20人。
勉強会「制作係長に聞く」講師:神田竜浩制作係長。出席:18人。
- 7/ 9 第4回研修会。出席:43人。夏休み公演日程調整など。
夏休み公演演目説明、見所解説。担当:藤田。
学習会「金壺親父恋達引」を読む。
- 7/15 勉強会。第9回浄瑠璃本を読む。『大経師昔暦中の巻』。
第4回研修会報告書発送事務作業。世話人:松井、安藤。
応援団活動写真バ刹作成。担当:荒木、齋藤。
- 7/22 夏休み特別公演初日の前日準備。世話人:安藤。
- 7/23 夏休み特別公演初日。展示室解説、演目解説など、8月9日まで
応援団通信29号3,000部発行予定。

文楽公演

平成28年10月

地方公演スケジュール

【主催】文楽協会【後援】文化庁

ユネスコ無形文化遺産、人形浄瑠璃文楽。

演目【昼の部】「解説」『妹背山婦女庭訓』「杉酒屋の段」「道行恋亭環」「姫戻りの段」「金殿の段」

【夜の部】「解説」『近頃河原の達引』「四条河原の段」「堀川猿廻しの段」

地方公演チケットお問い合わせ先

10月1日(土)	ラプリーホール(大阪府河内長野市)	0721-56-6100	10月10日(月・祝)	グランシップ(静岡県静岡市)	054-289-9000
3日(月)	電力ホール(宮城県仙台市)	022-227-2715	14日(金)	北野文芸座(長野県長野市)	026-233-3111
7日(金)	名古屋市芸術創造センター(愛知県名古屋市)	052-249-9387	16日(日)	登別市民会館(北海道登別市)	0143-88-1129 (登別市教育委員会)
8日(土)	岡崎市せきれいホール(愛知県岡崎市)	0564-25-0511	18日(火)	札幌市教育文化会館(文楽入門セミナーのみ上演)	011-271-3355
9日(日)	神奈川県立青少年センター(神奈川県横浜市)	045-263-4475	19日(水)	札幌市教育文化会館(北海道札幌市)	011-271-3355

文楽応援団通信 第29号 2016年7月23日

編集・発行 文楽応援団(年2回発行予定)

連絡先 〒542-0073大阪市中央区日本橋1-12-10

国立文楽劇場 事業推進課

TEL06-6212-5542(直通) FAX06-6212-1202